

2 学級経営実践報告（2）

川 田 基 生

1. はしがき

本校では、1980年以降毎年秋の学校祭で中学全学級による演劇コンクールがおこなわれている。ここでは1985年の中学1年生、筆者の学級の演劇について若干のことを報告しておきたい。

2 学級演劇の効用

演劇を学級集団でとりくむのは、演劇が集団性というものの豊かさをつむぎ出す手だてとして、有効だからである。演劇を準備し、練習する過程で学級集団、そして各生徒個人について偶然性に満ちいろいろな発見が出てくる。教師にとっても 生徒にとっても豊かな潜在性を追求しうる状況が設定しうる。このことが学級演劇にとりくむことの意味、あるいは魅力である。

3 創作劇の有効性

今回、脚本を担任である筆者が書くことにした。メキシコの神話を素材にした創作劇、というより編集劇。ここ数年、中学生、高校生の劇を三十本ほど見て、学校演劇、学級演劇は、芸術というより教育の一方法と考えるようになった。学級演劇を総合的教育指導ととらえるなら、脚本は以下の理由から、担任教師の創作ないし大幅な再編集の方が有効、といより無難。

(1) 上演時間の調節。全クラスによる演劇コンクール。一幕。一本25分以内が望ましい。1時間の劇の準備練習に正味40日かかると言われているが、通常の学級演劇では20日もとれない。

(2) 人数、男女比、年齢。既成脚本で配役したら、意図していないおやま、女の憲兵の登場、ということが時としてある。年齢差が台詞の大きい要素となっている脚本も、13才の45人集団では演じ難い。

(3) 観客。全生徒による鑑賞。9月下旬の暗幕をはった体育館内のむし暑さ、へたな芝居を見つづける時の精神状態を考慮することができる。

(4) 舞台の広さ、スポットライトの性能。学校の乏しい資材、予算への配慮。大道具も上演までは教室のすみに置ける大きさである必要がある。

(5) 仕事量。45人の生徒がそれぞれ精一杯がんばれる課題の設定。配役が決まってからの全面改訂が可能。

4. 脚本

ジョルジュ・バタイユ『普遍経済学』に引用されているメキシコの神話を素材にした。

概略。世界に太陽がなかったころ、世の中は真暗で、人々（神々）は闇の中で寒さに震えていた。言い伝えによれば、2人の神が犠牲になり、火の中にとびこまないと太陽は出来ない。神々は闇も寒気もいやであったが、命を失くするのはなおさら嫌であった。一番優れた人望厚いテクチズテカトル（風の神）が望まれて犠牲になることを承諾。あと一人がきまらない。一番風采のあがらない、はれものの神、ナナウアチンが押しつけられて犠牲になることが決まる。

ここまででは群読風に。群読の迫力は、場内を静め、劇の世界に観衆をひきいれる。

太陽の出来る前の地上最後の宴会がひらかれる。脚本では、ここを創作ダンスの踊りの場とした。中央に花飾りのポールを一つ。その下にテクチズテカトルとナナウアチン。この2人の苦悩をよそに、7人の踊り子がまわりを円舞。2人も、おまつり騒ぎの中で、熱狂的に踊る。

笛の音がして（生徒の作曲したもの）つめたい風が吹いてくる。いよいよ、火の中にとびこむ時が来た。4回の挑戦が許されている。先にテクチズテカトル。火の音高くなる。喝采の中、走り出しが4度ともとべない。「さあ、ナナウアチン、今度はお前が試みよ。」あまり期待されていなかったナナウアチン、一度でとびこんで、場内明るくなる。テクチズテカトルも、後を追ってとびこむ。

主題歌「コンドルは飛んでゆく」流れる。だんだん音量しほる。ナレーション「しばらくして、ナナウアチンが太陽となって東の空にのぼった。おくれてとびこんだテクチズテカトルは月になった。神々は仰ぎ見るが身動きできなかった。〈静かに音楽〉神々はめくらになってしまったのです。」笛の音、静かにつづく。

幕

せりふだけ、踊りだけ、ナレーションだけでも、3つのうち、一つだけで物語りがわかるような脚本とした。ふつうの脚本は、マイクの故障、主役の遅刻など予想して書かれてはいないのだが、必ず何かが起ることは覚悟しなければならない。

5 課題の表

クループ名	生徒	課題	達成水準	副産物
演出	A1 A2	1. 芝居、映画をたくさん見る 2. 一番おくれている部門の助力	支障をきたさず中枢機能かはせた。 分裂した大道具部門をまとめた。	
俳優小道具	B1 B2 B3 B4 B5 B6 B7 B8	3. 演技	声が通っていた。 それ一生涯運命をかわってきた。 喜劇で観客を笑わせた。	スペイン語のかけ声を学んだ。
踊り子	C1 C2 C3 C4 C5 C6 C7 (B1)	4. 創作タンス 5. 選曲 (南米風の踊りの曲)	生徒たちだけでタンスをつくれた。	
鳴物	D1 D2	6. ケーナ習得 7. ケーナによる作曲	あし笛ケーナでテーマを演奏。	ファンファーレを作曲
	E1 E2	8. キターの伴奏	一応伴奏していた。	まったくの素人がキター演奏
音響効力 ナレーション	F1 F2 G1	9. 太陽のてる時の音の録音 10. ナレーション	練習時はよかったです、本番ですべてを3年生にまかせた。	
大道具	H1 H2 H3 H4 H5	11. メキノコのピラミッドの勉強と製作 12. 花のポールつくり	一応できたが、作業場の教室の入口より大きくなってしまった。	残った木材で机、棚をつくって記念にした。
照明	I1 I2 I3 I4 I5 I6 I7	13. 太陽のてる前の光影を照明と壁画	学校の演劇設備の貧弱さから試行錯誤が多かった。	
衣裳マーク	J1 J2 J3 J4 J5 J6	14. メキシコの神々のイメージスケッチと製作	一入三着つつ貫頭衣風のものをつくれた。	はじめてミシンを使った。

6 演出の生徒の作文

学校祭でぼくたちがやるのは、合唱と演劇です。合唱は、一学期に大分すんでしまったので、今の調子でいけば、たいていだいじょうぶだと思いますが、演劇は13日現在の進行状態では、だいぶ不安です。全体的に進み具合が遅いと思います。これでは、25日までには、よほどがんばないとできないと思います。しかし、それにもかかわらず、まだ時間までには、充分に合うと考えている人がいます。グループでいくと、大道具、照明、俳優などが特に心配です。大道具はピラミッド、ポール、イスが残っています。照明は、バックの絵がうまくかけるかどうか心配です。俳優は、具体的な形になってない表情やどうさをするのが大変ですし、まだセリフもおぼえてないようだからです。とにかくこれからが大変だと思います。(A1)

7 俳優の生徒の作文

9月25日 26日 27日の3日間おこなわれた学校祭。その中でも1番心に残った1番苦労した演劇についてかきたいと思います。9月25日。初日、演劇の発表がさっそくありました。私は1番目の劇がおわるといそいで更衣室に行き 衣装を着、メイクをしてもらいました。もうその時からドキドキいっていたのです。舞台のそでで出番を待っているときはもうふるえがきていました。だからでしょうか、なんと最初の劇の1番最初のセリフをまちがえてしまったのです。とってもはずかしくてなきませんでした。いつも苦手だったおどりはどうにかまともにおどれました。ただ音が聞きとりにくかったのでリズムにあってなかつたと思います。まあ演劇はどうにか終わりました。ほんと、やっとおわったーってかんじでした。練習中にケガもしたし、のどもかれたし…最後おわったときのはくしゅを聞いて「あーやっぱりやってよかったなア」としみじみと思いました。(B1)

学校祭の準備で、ぼくは俳優をするので、せりふをおぼえたりしなくてはいけない。劇の中で、ぼくの言うところは、最後に、ちょっと言うだけなので、あまりむずかしくはないが、おどったり、とびこんだりする練習がある。とびこむ練習は、前にやったけど、とびばこの上からとびこむのだ。それは、とてもおそろしい練習だった。劇は、ほんとうにうまくいくか心配だ。

(B.2.)

太陽が出来る場面、ナナウアチンが火の中にとびこむところでは、歌舞伎の荒事の要素をとりいれようとした。舞台中央、下手よりに、メキシコのピラミッドを配置。劇中、ずっと置いてあるのだが、裏側にとび箱がいれてあり、最後の場面でジャンプ台として使用。半数が男子であるため、若草物語風脚本より、筋斗返りの練習が含まれる脚本として、練習自体成立しやすくした。

テクチズテカトルが火の中にとびこめないでいる。
風の音
老神「では、3回目」
ケーナ（南米のあし笛）、ピュー、ギター、ポロンボロン

神1「では、私がアプローチの手本を示しましょう。何事にも形というものがあります。テカトル、あなたは勇気がないのではなく、形を知らないのです。」

テクチズテカトル「お願いします。誘導して下さい。」
神1「さあ、形が決まれば、立派な太陽になれます。（親切そうに）靴に風船をつけた感じでね。右出し、左出し、ささのさ。かわりばんこにささのさ、抜き足、さし足しのび足。前足、あと足ささのさ。ホイッ！」ととびこむまね。助走路をヒョイヒョイ行く。ふりかえって、神1「どうぞ」

テクチズテカトル、神1につづき、同じようにやりはじめる。途中からナナウアチンもまねて、ユーモラスにつづく。

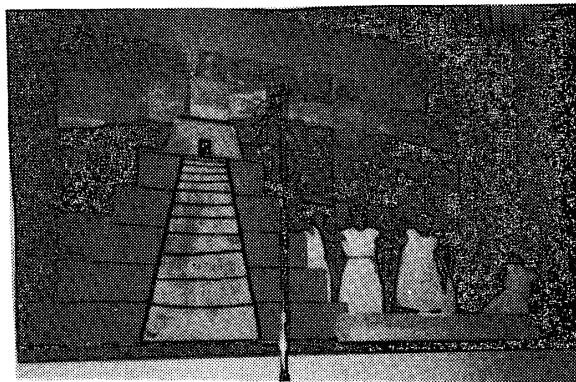
(脚本P17) 下線部、井上ひさし脚本より引用

神1の役の生徒の作文

準備のだんかいで、私が一番はずかしいと思っているのは俳優です。P17のところの神1のえんぎはとってもはずかしいものです。きのう、先生がやってみせてくれたけど、本当にはずかしいとあらためて感じたので、思わず「エー！」と言ってしまいました。

しかし私は、自分で俳優のところに名前を書いたのだから、すこしごらい「はじ」でもあれおしばいで本当の自分のすがたではないんだと思って練習するつもりです。

中1Bの演劇がうまくいくためにもがまんしてやりとげなければいけないことなんだから……。（B.3）



神1の役の生徒ははじめすぎて、動きが固いので、課題として、こんな場面を設定した。

学校祭ではぼくは演劇をやり、ぼくが一番客に笑わせました、しかも客はぼくが出てくるなり笑うのではなくも笑えてきて失敗してしまいそうな気になりました。ぼくの役割は、酒をビンごとのみながら出てきて、人に問題を出す役で、その問題がみんななぞなぞで、工場に火がついて火事になったから飛行場になるなどのような問題ばかりなので、客みんなにバカ笑いされたので、ぼくも少し笑ってしまいました。それにぼくのセリフは先生のまねをして問題を出すということになっていたのにぼくはわざれてしまって自分の声を出してしまったので、しまったと思いました。しかし劇が終わった時にあれでいいといわれたのでよかったです。なあと思いました。

(B.4.)

B4は教師のものまねが上手で、チャイムが鳴って教師が来るまで、教壇で、次に来る教師のものまねをして他の生徒を笑わせるといった子である。そこでこんな役をつくってみた。

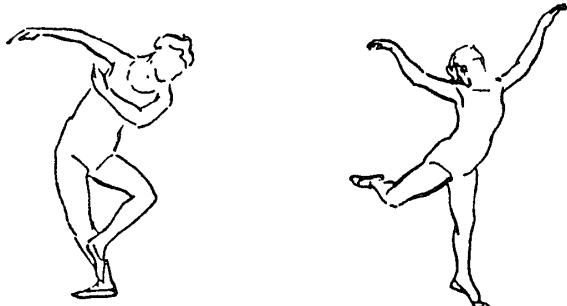
学校祭で、一番心に残ったこと、それは、演劇での、神四の役だと思います。

ぼくたち1年B組の演劇は、初日の二番目でした。ぼくは、とてもきんちょうしていました。だけど今まで、夏休み前から一生懸命練習してきたのだから、本番の時きんちょうしていてせりふをまちがえたら、自分のことはどうだっていいけれど、中1Bの人全員に、めいわくをかけるということになってしまないので、死んでもまちがえないように、と思っていました。

そして、ぼくたち中1Bの出番になりました。きんちょうして、紅茶を少しこぼしてしまったけれど、あまりせりふも多くないのでなんとかまちがえずにできました。

ぼくは、このことを一生わすれないように、心のどこかにしまっておきたいと思います。（B.5）

8 創作ダンス



太陽のできる前の神々の最後の宴の踊りを創作するように、という指示を出した。脚本の指定は、

踊り パート1『2人の苦しみ』

花飾りの中央ポール。テクチズテカトル。横になっている。ナナウアチン。ロダンの考える人風ポーズで2人はポールのそばに。踊り子そのまわりを。円舞。ターンを中心に太陽のできてくるよろこびを表現。

踊り パート2『おくりもの』

テクチズテカトルに踊り子が一輪の花をおくる。テカトルうけとり、別の二輪をプレゼント。別の踊り子四輪をおくる。テカトル8輪の花をお返しにする。3人目の踊り子。花束をおくる。テカトル2束の花束を返す。ガッツポーズ。

踊り パート3『テクチズテカトルの踊り』

テクチズテカトル、中央で、拒否。そして遠慮のマイム。その時踊り子、さしまねくポーズ。踊り子両脇へ。テカトル、中央でスイング中心に踊る。

踊り パート4『ナナウアチンの踊り』

踊り子たち退場。テクチズテカトル、おどりつづける。ナナウアチン、ユーモラスにまねをする。2人のパ・ド・ドゥ（ペアダンス）

まず、踊り子の役の子たちに、選曲をさせた。

アントニオ・パントーハのケーナのレコードを聞かせ<風とケーナのロマンス><コージャ族の王女><太陽の乙女たち><アイマラ族のお祭り><グアダルキビール><コージャ族のお祭り><エル・シクリー><ラ・オンダ><花祭り>などから選ばせた。その結果生徒たちは、<花祭り>を選んだ。

次に、J. ウィナールズ著「創作ダンス入門」—ヨース=レーダー法によるダンスのトレーニング—、一冊をたよりに、ダンスの創作を生徒に命じた。

はじめは、ただ歩いているだけであったが、フロアパターンはできていった。夏休み明け、9月になると、生徒たちは創作ダンスを完成させていた。

踊り子をやった生徒の作文

9月25日～27日の学校祭のため、たくさんの準備がすすめられています。私は演劇の踊り子の踊りを決めるため、毎日7人で考えています。でもなかなか音楽にあった踊りがでてこず、毎日、てんてこまいしています。いろいろな場所をかりていっしょけんめいやるけれど、まえ決めた所までしかできず、そこから踊りを考えるのがとてもむずかしいですそれと、きゃく本にあった踊りとあわせるのも、なかなかできず今はちょっとくるいぎみです。花をもって踊り、さしあげて、踊るという感じをだしたいのだけど、なんとなく、音楽にあわせれなくて、この先の踊り、考えられるかなぁと思いました。でも、みんなとわきあいあいでやってられるし楽しんでできるから、やっててもあきるかもうやだとかいう思いはできません。でもたまにつかれたと思う時があります。

本番には、失敗しないで、まわりをもりあげるように踊りたいと思います。
(C1)

学校祭の演劇では私は踊り子やりました。最初きんちようするだらうなあと思いながら、舞台の横で見ていました。今日は絶対に失敗しないぞと思いながら、なぜかポールを出しているのに明るくて音楽がながれていきました急いで押して、踊りはじめて一步一步前へステップしながら進み、衣裳の人が、作ってくれたスカートをはいて、きんちようしながら一生懸命にやっていました。心配だったステップの速さや、曲の半周、一周のところも、うまくいきました。それとパートナーチェンジしたのに今日はなぜかいつもよりもうまくいきました。失敗は下を向きながら踊ってしまったことだけです。夏休みからずっと、私たちが自分たちで考えた踊りが、こんなに楽しく成功したのでよかったです。踊り子全員と他の人も協力してくれた。赤や黄や白の花も自分たちの手で作ったので、なんとなくお守りのようで元気が出ました。一番最高の踊りが出てよかったです。
(C2)

9 学級演劇についてのアンケート

A準備の段階で	I さぼっていた	0%
	II いやいややっていた	12%
	III やる気はあった	22%
	IV 十分がんばれた	48%
	V 思い出に残ることがやれた。	17%

B自分の役割ははたせましたか

I 满足できるくらいやれた	22%
II まあまあやれた	61%
III どちらともいえない	12%
IV 少々不十分	5%
V 全然だめだった	0%